

(別添1) 公的医療機関等 2025 プランの概要

【医療機関名】 飯山赤十字病院

項 目	内 容
<p>1 現在の医療機能</p>	<p>(1) 病床機能ごとの病床数(平成 29 年 7 月 1 日)</p> <p>急性期 60 床</p> <p>回復期 180 床(地域包括ケア病床 120 回復期リハビリテーション病床 60)</p> <p>慢性期 44 床(療養病床 44)</p> <p>合 計 284 床</p> <p>(2) 救急・へき地医療等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急告示病院 ・第二次救急医療施設 ・へき地医療拠点病院 <p>(3) 診療科(標榜診療科)</p> <p>内科 消化器科 呼吸器科 循環器科 小児科 精神科 心療内科 神経内科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 皮膚科 放射線科 麻酔科 リハビリテーション科</p> <p>(4) 基本診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般病棟入院基本料7:1 ・回復期リハビリテーション病棟入院料2 ・地域包括ケア病棟入院料1 ・医療療養病棟入院基本料 ・小児入院医療管理料5 ・臨床研修病院入院診療加算(協力型) ・診療録管理体制加算2 ・医師事務作業補助体制加算2(75:1) ・重症者等療養環境特別加算 ・超急性期脳卒中加算 ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・医療安全対策加算1 ・ハイリスク妊娠管理加算 ・退院調整加算 ・救急医療管理加算 ・急性期看護補助体制加算(50:1) ・感染防止対策加算1 ・感染防止対策地域連携加算 ・患者サポート体制充実加算 ・救急搬送患者地域連携紹介加算 ・救急搬送患者地域連携受入加算 ・病棟薬剤業務実施加算 ・データ提出加算2 ・総合評価加算 ・療養病棟療養環境加算1
<p>2 医療機関が抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は、北信医療圏内の岳北地域に所在し、当該地域の住民を主な患者としている。今後、地域の人口の減少に伴い、患者数の減少も予測されるが、岳北地域唯一の病院として、高齢者を中心とした医療需要は見込まれる。 ・また、岳北地域は、地形や道路事情から救急搬送に時間を要する地域であり、かつ、特別豪雪地域であることから、冬期は移動に要す

	<p>る時間距離が大幅に増えてしまうため、住民に身近な医療の確保は欠かせないものとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院の常勤医師は、平成 28 年度末で 21 人であり、平成 15 年度の 33 人と比較して 12 人減少している。医師の不足する診療科（特に内科、脳神経外科、産婦人科）では、大学病院等に非常勤医師の派遣を依頼して対応しているものの診療日・診療時間の制限や救急車の受入れ制限をせざるを得ない状況もある。 ・整形外科とともに当院の特徴である消化器内科を中心に、在宅療養患者の短期入院（レスパイト入院）や高齢者の肺炎等に対応できる内科常勤医師も必要不可欠である。また、死亡原因の割合の高い循環器系疾患とりわけ脳神経外科の常勤医師確保が急務となっている。 ・さらに、少子化対策、移住・定住の促進など地方創生の観点から、子どもを安心して産み育てられる環境づくりの一翼を担う産婦人科常勤医師の確保は、地域からの要望が強い。
<p>3 課題を踏まえた将来の医療機能・担うべき役割</p>	<p>(1) 今後担うべき役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岳北地域は、全国屈指の豪雪地帯であり、公的医療機関が当院のみであり、診療所も少ないことから、一次救急から二次救急まで、地域の中核病院として診療に当たっている。 ・医師・看護師・薬剤師・リハビリ等多職種のスタッフがチームとして取り組む訪問診療を全国的にみても早い段階から取り組んできており、訪問看護ステーションや通所リハビリテーション施設も設置して、急性期から慢性期・在宅まで一貫して地域医療を担ってきている。 ・こうした当院の機能面からみた特徴、強みは、日本赤十字社の病院としての救急医療やへき地医療提供の面からも堅持していかなければならない。 ・緊急性が求められる重篤な循環器系及び脳血管疾患等は、高度急性期・急性期を主とする北信総合病院との医療連携を図ってきたところである。 ・今後も北信医療圏の医療を確保するため、地元自治体の参画を得て「北信 3 病院連携会議」が設置されており、それぞれの特性を活かした連携・機能分担を進めていくものとしている。 <p>(2) 今後の病床機能等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岳北地域の総人口・高齢化人口の推移、地域の医療資源の状況を踏まえれば、高度急性期等を経過した患者（ポストアキュート）、在宅・介護施設等からの急性憎悪した患者（サブアキュート）に対して医療を提供する病院が圏域には必要である。 ・当院としては、豪雪地帯である岳北地域唯一の病院として急性期病床を堅持していかなければならない。 ・その上で、北信医療圏の医療体制を踏まえ、多機能な病床を有する

当院の特徴をさらに活かすべく、急性期に近く＜亜急性期＞短期滞在手術等基本料にも対応する地域包括ケア病棟と、回復期・慢性期に近い地域包括ケア病棟とタイプを分け2病棟 120床とするため、平成29年7月1日に急性期1病棟60床を地域包括ケア病棟に転換した。

- ・当院の強みである整形外科、充実したリハビリスタッフを活かすべく、回復期リハビリテーション病棟60床も継続して運営するほか、療養病床44床は現在の入院基本料2から入院基本料1へ変更を進める。
- ・急性期からの後方病床の充実を図ることにより、他院へ紹介することなく自院での転棟が可能であり、必要な診療科の意思を確保しながら急性期から回復期、慢性期まで対応できる当院の強みを活かしながら、当面、現有病床機能の維持に努めていくものとする。

【4機能ごとの病床の方針】

	現 在 (H28 病床機能報告)	将 来 (2025 年度)
高度急性期	-	-
急性期	120 床	60 床
回復期	120 床	180 床
慢性期	44 床	44 床
合 計	284 床	284 床



※回復期内訳
地域包括ケア 60床
回復期リハ 60床

※回復期内訳
地域包括ケア 120床
回復期リハ 60床

4 将来に向けた取組スケジュール

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○急性期病棟1棟(60床)を地域包括ケア病棟に転換(7月～)	○当院の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定) ○北信医療圏地域医療構想調整会議において当院の病床のあり方に関する合意を得る(12月)。	
2018年度			<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">第7期 介護保 険事業 計 画</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">長野県第7次医療計 画</div> </div>
2019～ 2020年度			
2021～ 2023年度			

5 数値目標

項目名	2025年数値目標
病床稼働率	90.0%以上
手術室稼働率	80.0%以上
紹介率	40.0%以上
逆紹介率	35.0%以上
医業収益に占める人件費比率	55.0%以下
医業収益に占める人材育成にかける割合	1.0%以下